

令和5年度 病害虫発生予察情報(美濃地域：施設野菜) 11月予報

【 トマト 】コナジラミ類

野外のコナジラミ類の誘殺数は、平年より多く推移しています。トマトやキュウリのウイルス病害を媒介するタバココナジラミの侵入防止対策として、防虫ネット等の隙間を確認し、破れがあれば補修してください。

【 野菜共通 】ハスモンヨトウ *病害虫発生予察注意報第2号(R5.9.4付け)発表

フェロモントラップの誘殺数が平年を上回る地域が多くなっています(病害虫情報第10号(R5.10.19付け発表)参照)。今後、被害拡大が懸念されますので、ほ場をよく確認し、発生が多い場合は防除を実施してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(11月)

作物	病害虫名	11月(予測)	発生状況及び今後の予測	10月(発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	少	調査ほ場で発病は認められない。今後、気温の低下にともない菌の生育適温(17~20℃)となるため、発病が予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病 発生初期の防除を徹底する。 ・ハダニ類 薬剤は葉裏まで散布し、天敵導入前にハダニ類の密度を下げる。 ・ハスモンヨトウ 防虫ネットで侵入を防ぐとともに、卵塊を見つけ次第除去する
	ハダニ類	やや多	一部の調査ほ場で平年より多く発生が認められる。今後、気温は平年より高いと予想され、施設内の温度が上がりやすいため、増加が予測される。	並	
	ハスモンヨトウ	やや多	一部の調査ほ場で平年より多く発生が認められる。今後、気温は平年より高いと予想され、発生は増加すると予測される。	やや多	
トマト	灰色かび病	少	調査ほ場で発病は認められない。今後、降水量は平年並~少ないため、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病 曇天が続く場合は、本病をはじめ疫病などの発生にも注意し、予防的な防除を行う。 ・コナジラミ類 少発生でも防除を徹底する。
	コナジラミ類	やや多	施設内の粘着板への誘殺が平年より多く認められる。今後、気温は高いと予想され、遅くまで施設内への飛込みの危険性が続くとして予測される。	やや多	
キュウリ	褐斑病	並	一部の調査ほ場で発病が認められる。耐病性品種では発病は少ないが、罹病性品種では発病が予測される。	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・褐斑病・うどんこ病 罹病性品種では発病が認められたら発病葉を除去し、早期に防除する。 ・べと病 過湿時には循環扇などを利用して通風を良くし、除湿に努める。 ・アザミウマ類 わずかでも発生が認められたら初期防除を実施する。
	うどんこ病	並	一部の調査ほ場で平年より多く発病が認められる。今後、気温の低下にともない菌の生育適温(17~20℃)となるため、罹病性品種では発病が予測される。	並	
	べと病	やや少	一部の調査ほ場で発病が認められる。今後、降水量は平年並~少ないと予想されるが、罹病性品種では発病が予測される。	やや少	
	アザミウマ類	やや少	調査ほ場で発生は認められない。今後、予想気温は平年より高いため、増加が予測される。	少	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃及び東濃地域

注2) 調査品種 イチゴ：濃姫、美濃娘及び紅ほっぺ トマト：りんか及びびかれん キュウリ：ニーナ及びまりん(うどんこ病・褐斑病・べと病耐病性品種)

○タバココナジラミ

本虫は、トマト黄化葉巻病(TYLCV)、トマト黄化病(ToCV)及びキュウリ退緑黄化病(CCYV)の病原ウイルスを媒介します。

本県で発生している本虫の多くは、一部の農薬に抵抗性を持った「バイオタイプQ」のため、薬剤の選択には注意し、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行ってください。

○トマトキバガ *病害虫発生予察特殊報第2号(R5.10.11付け)

侵入警戒害虫である本虫が、飛騨地域に続き西濃地域のトマト栽培ほ場周辺に設置したフェロモントラップでも誘殺が確認されました。現在のところ、本県では本虫による農作物の被害は確認されていませんが、幼虫が頂芽、葉、茎、花及び果実を食害します。トマトキバガに対する登録薬剤はトマトおよびミニトマトであるため、発生を拡大させないために、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行ってください。

＝施設栽培の病害虫について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内及び周囲の状況をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

○調査データ(10月調査)

		岐阜・西濃	中濃
イチゴ	うどんこ病 (発生株率%)	0 (0.0)	0 (0.0)
	ハダニ類 (寄生株率%)	6.0 (10.5)	38.0 (14.4)
	ハスモンヨトウ (寄生株率%)	2.7 (0.3)	0 (0.0)
トマト	灰色かび病 (発病果率%)	0 (0.0)	—
	コナジラミ類 (誘殺頭数)	31.7 (8.8)	—
キュウリ	褐斑病 (発病葉率%)	4.3 (0.5)	0 (0.0)
	うどんこ病 (発病葉率%)	0 (1.2)	0.8 (0.2)
	べと病 (発病葉率%)	0.3 (0.3)	0 (1.7)
	アザミウマ類 (寄生頭数/100頭)	0 (2.7)	0 (0.0)

注1) イチゴは岐阜・西濃3ほ場、中濃1ほ場、トマトは3ほ場、キュウリは岐阜・西濃2ほ場、中濃1ほ場

注2) ()内は平年値

注3) コナジラミ類は施設内に設置の黄色粘着板での調査(10月第1~3半月までの累計数)

東海地方1か月予報(名古屋地方気象台 10月26日発表)

向こう1か月の気温は平年より高い、降水量は平年並~少ない、日照時間は平年並~多いと予想されます。平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058)239-3161 FAX (058)234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ